

No.34

損保ジャパン東郷青児美術館

NEWS

SEIJI TOGO MEMORIAL
SOMPO JAPAN MUSEUM OF ART



左) ルーカス・クラナハ (父) の工房《聖ドロテア》1530年頃
右) ルーカス・クラナハ (父) 《不釣り合いなカップル》1531年



ヨーロッパ絵画の400年
ウィーン美術アカデミー名品展

ルネサンスから近代まで—クラナハ、ルーベンス、レンブラント…



2006年9月16日[土]—11月12日[日]

JOY POP !

ポップアート 1960's → 2000's

リキテンスタイン、ウォーホルから最新の若手まで

2006年7月8日[土]—9月3日[日]



マリーナ・カボス《077, 白鳥, 2004》
2004年、アクリル、カンヴァス、168.0 × 137.0cm
© Marina Kappos

2000年前後から、若手の絵画作品に注目した展覧会が世界の各都市で開催されています*。出品作家の多くがインターネットやデジタル画像のイメージに触発されているのが特徴です。都内では2002年に東京都現代美術館が「WE LOVE PAINTING」展によって紹介した株式会社ミスマのアメリカ現代美術コレクションも、抽象表現主義やネオダダなど評価の定まった作家たちの版画から若手の絵画や写真へと収蔵品の幅を広げてきました。本展覧会ではミスマコレクションのご協力のもとに、テーマをポッ

プアートに絞って32作家による78作品を展示いたします。

1960年代に登場したポップアーティストは、とくに絵画や版画などの平面作品において、消費社会がもたらしたテレビ・雑誌・看板などの新しいメディアをテーマにとりあげました。彼らの視点は、IT化による生活スタイルの変化に直面している私達にとって今なお新鮮さを保っています。

会場の前半では、リキテンスタインやウォーホルらの版画作品群から1980年代のグラフィティ・アートまでをふりかえります。後半では、今年初めにロスのダンス・シーンのドキュメンタリー映画「ライズ」が渋谷で公開されたラシャベルの写真作品や、日本のマンガなどの一部をスキャナーで取り込み拡大するカール・ファッジなど、ポップアートのウィットに富んだ精神を受けつぐ若手作家たちをご紹介します。

*「Abstract Painting, Once Removed」展(1998年、米・ヒューストン)、「Painting at the Edge of the World」展(2001年、米・Minneapolis)、「Painting Pictures, Painting and Media in the Digital Age」展(2003年、独・ヴォルフスブルグ)ほか

関連イベント:

講演会「19億円のマンガの絵? ポップアートの経済効果」

講師: 広本伸幸 (株式会社ミスマアートコレクション、キュレーター)

8月26日(土) 14:00 ~

損保ジャパン本社ビル2階大会議室にて

(詳しくはHPをご覧ください)



キース・ヘリング《グローイング I》
1987年、スクリーンプリント、紙、102.6 × 76.7cm
Keith Haring artwork © Estate of Keith Haring



受賞作《天と地と》2004年

第28回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念

おおつえいびん 大津英敏展 —伝えたい気持ち—

11月23日[木・祝]—12月26日[火]

関連イベント:

大津英敏氏によるギャラリー・トーク

※会場内で作品の解説をいたします

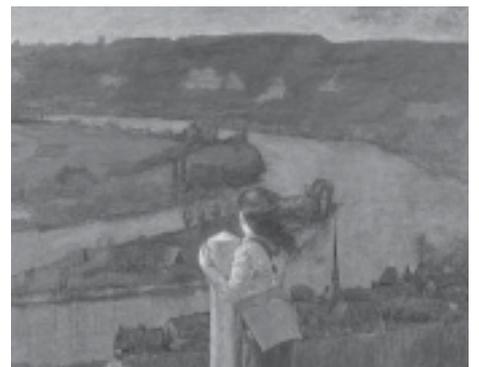
11月26日(日)、12月16日(土)

いずれも13:30 ~

損保ジャパン東郷青児美術館大賞は1977年に創設され、「技術的に優れている」「感覚が新鮮である」「独自の世界を持っている」の3点を選考基準として、毎年、前年の1年間に優秀な絵画を発表した画家1名に授与されています。来る11月23日より12月26日まで、第28回目の受賞者である大津英敏氏の展覧会が開催されます。

大津英敏氏は1943年熊本県熊本市で生まれ、福岡県大牟田市で少年時代を過ごし

た。東京芸術大学で学び、大学院修了後は独立展を始めとする展覧会で作品を発表し画壇の注目を集めました。1970年代には少年時代の思い出に着想を得た「毬シリーズ」と呼ばれる幻想的な作品を描いていましたが、1979年に家族と共に渡仏、それを機に二人の娘たちをモデルにした「少女シリーズ」に取り組み始め、以降、成長して行く娘たちや家族をテーマに一連の作品を描いています。本展覧会では初期の「毬シリーズ」から「少女シリーズ」、



《LA SEINEI》1998年

そして近年、新たに取り組み始めた風景画まで、初期の作品から新作まで、受賞作を含めた60余点を展示し大津英敏氏の画業を展望いたします。

INFORMATION 2006年7月—2007年3月

2006年7月8日[土]—9月3日[日] ポップアート1960's → 2000's リキテンスタイン、ウォーホルから最新の若手まで

60年代のビッグネームから、ピーター・ハリー、キース・ヘリングら80年代の個性派を経て、アメリカでポップアートの精神を受けつぐ現在活躍する若手作家たちを紹介します。

- ◆ 月曜休館(7月17日は開館) 午前10時～午後6時まで(金曜日は午後8時まで) 入館は閉館の30分前まで
- ◆ 入館料: 一般1,000円(800円) / 大高生600円(500円)、() 内20名以上の団体料金/シルバー(65歳以上)800円/中小生無料

2006年9月16日[土]—11月12日[日] ヨーロッパ絵画の400年 ウィーン美術アカデミー名品展

ルネサンスから近代まで—クラナハ、ルーベンス、レンブラント…

ウィーン最古の公共美術館であるウィーン美術アカデミー附属絵画館の収蔵品から、クラナハ(父)の板絵4点、ルーベンス、レンブラントなどの名品約80点を展示します。【お客様感謝デー無料観覧日10月1日(日)】

- ◆ 月曜休館(9月18日、10月9日は開館) 午前10時～午後6時まで(金曜日は午後8時まで) 入館は閉館の30分前まで
- ◆ 入館料: 一般1,000円(800円) / 大高生600円(500円)、() 内20名以上の団体料金/シルバー(65歳以上)800円/中小生無料

2006年11月23日[木・祝]—12月26日[火] 第28回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞記念 大津英敏展

第28回損保ジャパン東郷青児美術館大賞受賞を記念し、家族の肖像画など、初期の作品から新作まで約60余点を展示する回顧展です。

- ◆ 月曜休館 午前10時～午後6時まで 入館は閉館の30分前まで
- ◆ 入館料: 一般500円(400円) / 大高生300円(200円)、() 内20名以上の団体料金/中小生無料

2007年1月11日[木]—2月18日[日] 未来を担う美術家たち「DOMANI・明日」展2007

〈文化庁芸術家在外研修(新進芸術家海外留学制度)の成果〉

文化庁が実施している若手芸術家の海外研修の成果を発表します。

- ◆ 月曜休館(2月12日は開館) 午前10時～午後6時まで 入館は閉館の30分前まで
- ◆ 入館料: 一般500円(400円) / 大高生300円(200円)、() 内20名以上の団体料金/中小生無料

2007年3月1日[木]—3月30日[金] 選ばれた新進作家たち 第26回損保ジャパン美術財団選抜奨励展

各美術団体の絵画部門における「損保ジャパン美術財団奨励賞」受賞作と、全国の推薦委員によって推薦された絵画作品を展示し、会場審査により優秀作品を選出、表彰します。

- ◆ 月曜休館 午前10時～午後6時まで 入館は閉館の30分前まで
- ◆ 入館料: 一般500円(400円) / 大高生300円(200円)、() 内20名以上の団体料金/中小生無料

選ばれた新進作家たち 第25回損保ジャパン美術財団選抜奨励展 入賞作品報告

損保ジャパン美術財団では第25回選抜奨励展(3月16日～4月13日)に先立ち、3月6日に全出品作(平面62作品、立体18作品)を対象に



岩岡航路《南島・鯨池・忍》

審査を行い、授賞を決定しました。審査員は池口史子、澄川喜一、宝木範義、田中通孝、寺坂公雄、ワシオ・トシヒコの各氏に財団関係者2名を加えた計8名。入賞作品は右記のとおりでした。

英国シャーリー・シャーウッド コレクション

現代植物画の巨匠展
ボタニカル・アートのルネサンス 開催
4月22日から7月2日まで

写真のない時代に植物や葉草の学術的な記録を目的に描かれた植物画は、写真術や印刷技術の発展により一時衰退の兆しをみせました。しかし草花の成長過程や断面図・解剖図を同時に一枚の画面に表現する等の植物画ならではの長が近年再評価され、現在も世界各地で多くの作家が現役の植物画家として活躍しています。

英国のシャーリー・シャーウッド博士は植物画の普及につとめながら世界各地をまわり、現代の植

【平面作品部門】

損保ジャパン美術賞

岩岡航路《南島・鯨池・忍》油彩・パネル

秀作賞

安富洋貴《僕に至る隔たり》鉛筆・KMKケント紙

榎本香菜子《最後の個体》アクリル・油彩・キャンバス

樫原隆男《イエローウイング》油彩・キャンバス

【立体作品部門】

新作優秀賞

白石泰明《海楼》木(寄せ木)

新作用作賞

ますみつ三知子《LIFE 05 LIFE》鉄・ステンレス・アクリル

神山茂樹《ムリウ アンマ》石膏

TOPICS

物画家を発掘・支援しその作品を収集しています。

本展覧会では600点以上におよぶ博士のコレクションの中から、現代の植物画家による世界各地の草花を描いた121点の作品が展示されました。



ブリジットエドワーズ《食用酸漿》

第29回損保ジャパン東郷青児美術館大賞授賞式開催 受賞作は小杉小二郎氏の《月・追憶》



受賞作《月・追憶》2005年



6月7日(水)、損保ジャパン本社ビルにおいて第29回損保ジャパン東郷青児美術館大賞を受賞した小杉小二郎氏の授賞式が開催され、選考委員をはじめ多くの方々が出席されました。小杉小二郎氏は1944年東京都生まれ。幼少より祖父放菴より墨絵の手ほどきをうけ、日本大学工業デザイン科で学びました。1970年に中川一政氏と共に渡仏し、アカデミー・グランド・ショミエールに通い、1972年には作品がフランス国家の買い上げとなります。現在はフランスと日本を行き来し、両国で活躍しています。受賞作《月・追憶》は、一昨年に亡くなった御母堂を追憶した連作のひとつで、2005年の回顧展『巴里穏やかに時は流れ小杉小二郎展』で発表され注目を集めました。受賞記念展「小杉小二郎展(仮称)」は2007年秋に当美術館で開催されます。

ヨーロッパ絵画の400年 ウィーン美術アカデミー名品展

ルネサンスから近代まで—クラナハ、ルーベンス、レンブラント…

2006年9月16日[土]—11月12日[日]

ウィーン美術アカデミー

ハプスブルク帝国の都であったウィーンは、モーツァルト、シューベルトなどの活躍で「音楽の都」として知られています。しかし、ウィーンは美術、建築、演劇部門でも見るべきものが多く、その造形教育を支えてきた中央ヨーロッパ最古の美術学校がウィーン美術アカデミーです。宮廷画家シュトゥルメールが1692年より私邸で行っていた「アカデミー活動」をその創始としています。1726年に皇帝カール6世が学長を任命し、パリのアカデミーに倣って「絵画」「彫刻」「建築」「版画」の4部門が創設されました。その娘の女帝マリア・テレジアの時代には、アカデミーは帝室全領土の中心となる芸術教育を提供するだけでなく、文部行政の役割も果たしていました。1876年にハンゼン設計のネオ・ルネサンス様式の校舎が完成し、1920年から女子生徒も受け入れています。現在では、「写真」「メディア」「テキスタイル・デザイン」「舞台デザイン」「修復」「美術教育」学科も加わり、約900人の生徒が学んでいます。

付属絵画館はウィーン最古の公共美術館でウィーン美術史美術館に次ぐ規模を誇り、また付属図書館の絵画・建築資料もオーストリアでは最古・最大規模で知られています。

コレクションの特色

付属絵画館の収蔵品は、当初アカデミー入会審査用に提出された作品やコンテスト入賞作品などが中心でしたが、1824年にランベルク伯爵(1740-1822)の収蔵品約800点が遺贈され質量共に充実しました。今回は出品されていませんがヒエロニムス・ボスの三連祭壇画《最後の審判》やボッティチェリ工房の《聖母子》などを代表とする12世紀から現代に及ぶ約2,000点の作品を収蔵しています。また、ランベルク伯爵の希望で公共美術館として収蔵品が一般大衆に公開されるようになったことも重要なことです。伯爵のコレクションは17世紀のオランダとフランドル絵画や、外交官としてイタリアに滞在した関係でグアルディなどのヴェドゥータ(街景画)が中心で、当時の旅行案内書に掲

ギャラリートーク

学芸員が会場内で説明します。(約30分)

【一般対象】

9月22日(金)、29日(金) いずれも18:00～

- 1—アントニス・ファン・ダイク
《15歳頃の自画像》1614年頃
- 2—ペーテル・パウル・ルーベンス
《三美神》1620-24年
- 3—レンブラント・ハルメンス・ファン・レイン
《若い女性の肖像》1632年
- 4—ニコラース・マース
《アドニスの装いの少年の肖像》1670年頃
- 5—バルトロメ・エステバン・ムリーリョ
《サイコロ遊びをする少年たち》1670/75年頃

© Gemäldegalerie der Akademie der bildenden Künste wien

載されるほど著名なコレクションでした。伯爵所蔵品目録にはルーベンスだけで28点の作品が記録されていたそうです。

展覧会のみどころ

今回の出品作品のほとんどが旧ランベルク伯爵コレクションであり、17世紀「黄金時代」のフランドル、オランダなどの「オールドマスター」の作品が見所となっています。ウィーンで活動したこともあるルーカス・クラナハ(父)の板絵4点は本展中の白眉であります。また、ファン・ダイクの15歳頃の最初の自画像、ルーベンスの《三美神》、ムリーリョの《サイコロ遊びをする少年たち》、レンブラントの《若い女性の肖像》、レンブラントに師事したニコラース・マースの《アドニスの装いの少年の肖像》などの名品を堪能することができます。ウィーンで守り愛されてきた400年に亘るヨーロッパ絵画の流れを展覧することで、ハプスブルク家の栄光、ウィーンの歴史に思いを馳せることができます。



NEWS

お問い合わせ先
ハローダイヤル 03(5777)8600

財団法人 損保ジャパン美術財団 損保ジャパン東郷青児美術館

160-8338 東京都新宿区西新宿 1-26-1 損保ジャパン本社ビル 42 階
電話 03(3349)3081 [代表] / ファックス 03(3349)3079
ホームページ = <http://www.sompo-japan.co.jp/museum/>
交通 = JR 新宿駅西口、丸ノ内線新宿駅・西新宿駅、
大江戸線新宿西口駅より徒歩 5 分

損保ジャパン東郷青児美術館ニュース No.34

発行日 = 2006年8月1日
発行 = 財団法人 損保ジャパン美術財団
損保ジャパン東郷青児美術館
製作 = 求龍堂 デザイン = 若林純子
印刷 = 凸版印刷株式会社

R100
読者満足度調査 100% 達成